

5月になりました

新学年が始まり、一ヵ月が過ぎました。これまでと過ごす環境が変わり、約束事も変わり、多くの変化の中で過ごしてきた1年生は、小学校が「知らない場所から」「知っている場所」に変わり、黄色いランドセルカバーをかけたランドセルを背負って登校する姿が様になってきました。背負うランドセルが最初のころはやや横揺れをしていたのですが、この頃（4月下旬）になると、少しずつ体の力も付き、ランドセルを安定的に背負うこともだんだんと覚え、横揺れのランドセルから縦揺れのランドセルに変わってきています。（もちろん、個人差はあります。まだであっても、心配する必要はありません。いつの間にか、体が覚えて、できるようになります。最初は子供たちにとって大変だと思います。苦労だと思います。苦労を子供たちが自分の力で乗り越えるから、子供たち自身の力になるのだと思います。大人が代わりにしても子供の力になることはありません。まさに、「かわいい子には旅をさせよ」です。）

4月の昼休憩のことです。高学年の女子3人が、1年生とおにごっこをして遊んでくれていました。手をつないで走っていましたが、走るコースは自分が走りにくくても1年生が走りやすいコース、走るスピードも、歩幅を1年生に合わせて走っていました。1年生の走るスピードは、一定していないのですがそれにも対応していました。また、高学年の男の子も1年生とサッカーのパスをして遊んでくれていました。いつもは元気一杯、一緒に遊んでくれる先生にくらいつきながら、するどいシュートをしています。1年生が相手の時には、その子をよく見て相手に応じてパスのスピードを変えたり、パスを出す範囲を変えたりしています。どちらも、相手をよく見、相手がどうしたいのか考え、考えたことを基にした行動ができています。

きっと、ご家庭での声かけを始め、地域の皆様方が当たり前のように自分より弱い立場であると感じる人のために自らを律する様子を子どもたちが見ているのだと思います。子どもたちは、家庭で育ち、地域で育ち、そして学校で育っていきます。学校も、家庭、地域での教育と連携・連続していきながら、役割を果たしていきたいと思います。

三和小では、三和小ブランドという「子どもたちにこうなってほしい姿」を5つ目標に掲げています。その中に「困っている人のために行動できます」「あいさつで周りを元気にします」という目標があります。

これからの学校生活の中でも、いろいろな場面で三和小ブランドを実現する姿を見せてくれることを楽しみにしています。

神石高原町立三和小学校

校長 前田 静樹

三和小ブランド（三和小の児童は）

- ・あいさつで周りを元気にします
- ・地域のことを考えて行動できます
- ・困っている人のために行動できます
- ・みんなで協力して問題を解決します
- ・「感謝」の気持ちを「やる気」につなげます